

## 《最優秀賞》

### 水問題を解決するアプリ

大阪府

大阪府立水都国際中学校

1年

岡野 おかの  
朱里 あかり

みなさんは、自分が一日にどれぐらいの水を使っているか知っていますか。私たち人間は、生活の中で様々な場面で水を使っています。お風呂やトイレで使ったり、洗顔や歯みがきの時に使ったり、のどがかわいた時に飲んだりするなど、数え切れないほどの回数水を使っています。

そこで私は、自分が一日にどれだけの水を使っているのか知りたくなり、実際に一日で使った水の量を測ってみました。私は、あまりたくさん水を使っているという認識がなかったので、大体六十リットルぐらいだと予想しました。しかし結果は、三百三リットルもの水を一日で使っていました。その上、この中には、料理や洗たくに使った水はふくんでいません。つまり、入浴やトイレ、洗顔、歯みがきの時に使った水とのどがかわいた時に飲んだ水だけで、二リットルのペットボトルを百五十本以上使ってしまったということになります。私は自分が快適な生活をするために、一日にこれだけ多くの水を使っているということが分かってとてもおどろきました。そして、一日をふり返ってみると、もう少し使う水を減らしても、十分快適な生活ができると考えました。

現在日本は、水道水をそのまま飲むことができる数少ない国の一つです。日本では安全な水が身近にあるため、水問題についてあまりよく知らなかったり、興味を持っていないかったりすると思います。世界には、安全な水を飲むことが出来ず、毒が入っていると分かっている水を飲んだり、一日に使うことができる水の量が決められている国や地域がたくさんあります。体に害のある水でも生きるためには飲まなければならぬという人々がいます。しかし、少しでも多く生きるためにと思って飲んだ水のせいで、病気になったり、亡くなったりしてしまう人が大勢います。自由に水を使えないせいで、不自由で衛生的にもあまり良くない生活を送っている人もたくさんいます。私はこのような水問題で困っている人々の力になりたいと強く思いました。

しかし、このような水問題は、たくさんの人に節水を呼びかけて、水の使用量を減らすという方法では何の解決にもつながらないと思います。なぜなら、日本で節約した分の水が水問題で困っている国や地域に届くわけではないからです。

そこで私は、水問題の解決に向けたチャリティアプリを作ると良いと思います。アプリではまず、人々にクイズを通して楽しく水問題についてくわしくなったり、興味を持ってもらいます。そして次に、クイズに正解すると獲得できるポイントに参加者が貯めていきます。最後に、参加者が貯めたポイントをお金に変えて、水問題に困っている国の安全な水をつくる設備の工事や井戸を掘るために使うお金として、寄ふをします。寄ふをするお金は、アプリに広告を付けて広告費から寄ふをしたり、水問題の解決に賛同してくれる会社にスポンサーとして付けてもらい、寄ふのお金を出してもらったりすると良いと思います。このアプリを通しての寄ふが広まっていけば、水問題に貢献する人が増えるはずです。また、アプリに募金が出来ると機能が付けることで、積極的に募金をする人も出てきて、寄ふできる額が増えると思います。さらに、募金を一定の額以上してくれた人には、特別なリターンをつけることで、募金をする人が増えていくと思います。

水問題の解決に必要なのは、人々の水問題に対する意識だと思っています。このチャリティアプリを通して水問題の現状を世の中に広め、「自分が水問題に貢献している。」という充実感を使っている人に感じてほしいです。このような取り組みをすることで、少しでも世界の水問題を解決に近づけていきたいです。